

『武蔵野開拓と大江戸の誕生』

講 師 = ^{ナガノ ユキオ}永野征男 (日本大学教授)
 時 間 = 13:30 ~ 15:00
 受講定員 = 30人
 受講料 = 6,000円

■ テキスト：毎回、講義内容に関連する資料を配付します。

スケジュール

- ① 6月 5日 (金) 未開拓の台地を克服(1)
—地形図からの実証—
- ② 6月12日 (金) 未開拓の台地を克服(2)
—近世の新田開発—
- ③ 6月19日 (金) 町づくりの原点は自然改造(1)
—家康の都市計画への執念—
- ④ 6月26日 (金) 町づくりの原点は自然改造(2)
—特異な大城下の完成—
- ⑤ 7月 3日 (金) 町づくりの原点は自然改造(3)
—沿岸地区への進出—

講座内容

世界中が注目していた近世の大都市「江戸」。しかし、そこが最悪の自然環境であったことは良く知られています。

「山の手」から「海の手」と広がった大城下の建設は、武蔵野原野から沿岸低地まで、自然を巧みに生かした開発の歴史といえます。そして、両地域は絶妙に結びつき、それぞれの土地の違いを補い、発展を続けてきました。

そこで、今日の東京を考えると、これら近世の歩みが歴史的慣性として、いまだに継続していることを再認識したいと思います。

講師プロフィール

日本大学大学院理工学研究科修了(理博)。専門領域は「都市地理学」「地域論」。現在、日本女子大学・横浜市立大学・熊本大学の講師。州立ワシントン大学客員研究員(1984～)。朝日カルチャーセンター・横浜市市民講座などでも講演。